

'20

前期日程

化 学

(理 工 学 部)

注 意 事 項

問題(①~⑤)の全てに解答してください。

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題冊子は1冊(23頁)、解答用紙は5枚、下書用紙は1枚です。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所等があった場合には申し出てください。
3. 氏名と受験番号は解答用紙の所定の欄に記入してください。
4. 解答は指定の解答用紙に記入してください。
5. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
6. 問題冊子と下書用紙は持ち帰ってください。

問題を解くにあたって、必要ならば次の値を用いよ。

原子量	C = 12.0	Ca = 40.1	Cl = 35.5	Cu = 63.5
	H = 1.0	I = 126.9	K = 39.1	N = 14.0
	Na = 23.0	O = 16.0	Pb = 207.2	S = 32.1
	Si = 28.1	Al = 27.0	Fe = 55.8	Mn = 54.9

理想気体のモル体積 22.4 L/mol (0 °C, 1.01×10^5 Pa)

気体定数 8.31×10^3 Pa·L/(K·mol)

アボガドロ定数 6.02×10^{23} /mol

ファラデー定数 9.65×10^4 C/mol

1

(1) 次の文章を読んで、問1～問4の答を解答欄に記入せよ。

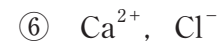
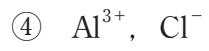
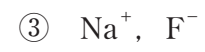
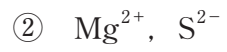
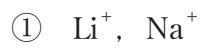
原子は、中心にある原子核と、原子核を取りまく何個かの電子からできている。原子核の周りの電子はいくつかの に分かれて存在する。 は、原子核に近い方からK殻、L殻、M殻、N殻…とよばれ、K殻、L殻、M殻、N殻それぞれに入ることのできる電子の数は 個、 個、 個、 個である。原子核の周りの電子は、原子核に近い電子ほど原子核に強く引きつけられて安定な状態にあるため、原則としてK殻から順番に入っていく。原子の最も外側の を最外殻という。イオンになったり、結合を形成したりするのに重要な働きをする電子は とよばれる。希(貴)ガスの原子を除き、最外殻に入っている電子が である。最外殻が閉殻になっているヘリウム He やネオン Ne、最外殻に 個の電子が入っているアルゴン Ar などの希(貴)ガスの原子は、その電子配置が安定していて、イオンになったり、他の原子と結合したりすることがまれである。このため、 の数は 個とする。

問1 空欄 ～ に当てはまる最も適切な語句または数を記せ。

問2 原子番号 a 、質量数 b である原子の陽イオンがある。この陽イオンの価数を c とするとき、この陽イオン1個に含まれる陽子、中性子、電子の数を、 a 、 b 、 c を使ってそれぞれ記せ。

問3 地球上で天然に存在するホウ素には2種類の同位体が存在する。それぞれの同位体の質量数、相対質量、存在比は、10、10.01、19.9%および11、11.01、80.1%である。ホウ素の原子量を求める計算式を、これらの値を使って示せ。また、その計算結果を有効数字3桁で記せ。

問 4 次の①～⑥のうち、2つのイオンの電子配置が同じものをすべて選び、その番号を記せ。



(2) 酸化と還元に関する次の問 1～問 4 の答を解答欄に記入せよ。

問 1 銅を空気中で加熱すると、黒色の酸化銅(Ⅱ)が生じる。この反応の化学反応式を記せ。また、この反応において酸化剤としてはたらく物質、および還元剤としてはたらく物質の化学式をそれぞれ記せ。

問 2 硫化水素と塩素を混ぜ合わせると、塩化水素と硫黄が生じる。この反応の化学反応式を記せ。また、この反応において酸化剤としてはたらく物質、および還元剤としてはたらく物質の化学式をそれぞれ記せ。

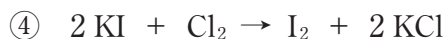
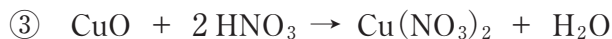
問 3 硫酸酸性水溶液中で鉄(Ⅱ)イオンと過マンガン酸イオンが反応して、鉄(Ⅲ)イオンとマンガン(Ⅱ)イオンが生じる反応について、次の各問に答えよ。

1) 鉄(Ⅱ)イオンが電子を放出して鉄(Ⅲ)イオンとなる反応を、電子 e^- を含むイオン反応式で記せ。

2) 過マンガン酸イオンが電子を受け取ってマンガン(Ⅱ)イオンとなる反応を、電子 e^- を含むイオン反応式で記せ。

3) 0.20 mol/L の過マンガン酸カリウム水溶液 1.0 mL 中の過マンガン酸イオンと過不足なく反応する鉄(Ⅱ)イオンの物質量を有効数字 2 桁で答えよ。

問 4 次の①～④の反応のうち、酸化還元反応であるものを 1 つ選び、その番号を記せ。また、その反応で酸化された原子と還元された原子それぞれの、元素記号、反応前の酸化数、反応後の酸化数を記せ。



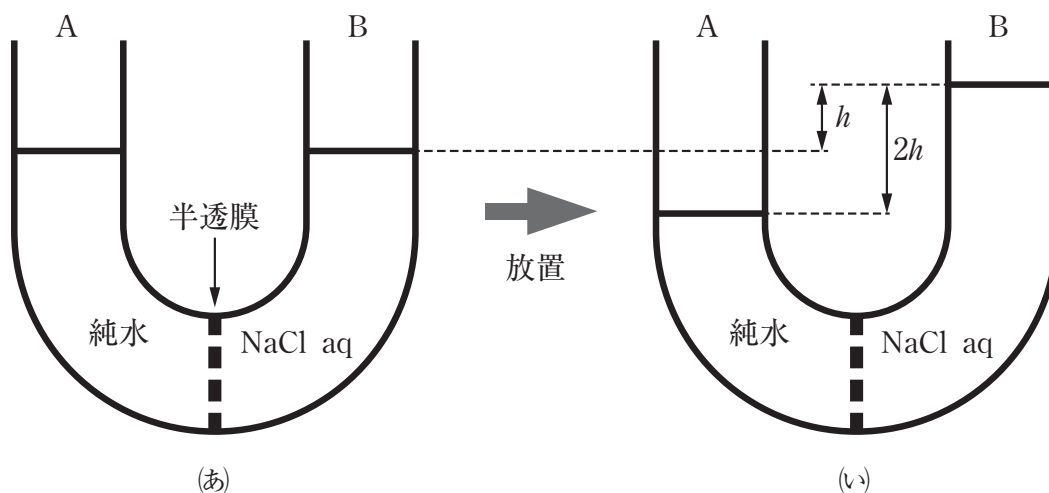
2

(1) 溶液の浸透圧に関する次の問 1 および問 2 の答を解答欄に記入せよ。ただし、浸透圧はファントホッフの法則に従うものとする。

問 1 塩化ナトリウム NaCl 0.585 g を、純水に完全に溶解して 1.00 L の塩化ナトリウム水溶液とした。次の各問に答えよ。

- 1) この塩化ナトリウムの物質量を、有効数字 3 桁で答えよ。
- 2) この塩化ナトリウム水溶液のイオン全体のモル濃度を、有効数字 3 桁で答えよ。ただし、溶解した塩化ナトリウムは水溶液中で Na^+ と Cl^- に完全に電離しているものとする。
- 3) この塩化ナトリウム水溶液の浸透圧 [Pa] を、有効数字 2 桁で答えよ。ただし、温度は 27°C とする。

問 2 次頁の図に示すように、水分子のみを通す半透膜で仕切られた U 字管の B 側に、浸透圧が Π [Pa] の塩化ナトリウム水溶液 v [cm^3] を入れ、A 側には純水 v [cm^3] を入れた。最初、図(あ)に示すように両側の液面の高さは等しかったが、これを放置すると、次第に水が A 側から B 側に移動し、図(い)に示すように、B 側の水面が、もとの位置より h [cm] 上がったところで水の移動が止まった。図(い)の状態に関して、次の各問に答えよ。ただし、塩化ナトリウム水溶液と純水の密度は同じとし、A 側と B 側の水面差 1 cm あたりの水柱の圧力は、 p [Pa/cm] とする。また、図(あ)と図(い)の温度は等しく、U 字管の断面積は一様で s [cm^2] とする。



図

- 1) 図(b)の A 側と B 側の水面差に相当する水柱の圧力 [Pa] を表す式を次の①～⑤から 1 つ選び、その番号を記せ。

① $\frac{ph}{2}$

② ph

③ $2ph$

④ $3ph$

⑤ $4ph$

- 2) 図(b)の B 側の塩化ナトリウム水溶液の体積 [cm³] を表す式を次の①～⑤から 1 つ選び、その番号を記せ。

① $v + \frac{sh}{2}$

② $v + sh$

③ $v + 2sh$

④ $v + 3sh$

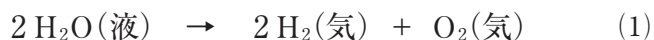
⑤ $v + 4sh$

- 3) 図(b)の B 側の塩化ナトリウム水溶液の浸透圧と、1) で解答した水面差に相当する水柱の圧力は等しい。この関係を表す等式を記せ。

- 4) $\Pi = 2.2 \times 10^3 \text{ Pa}$, $p = 1.0 \times 10^2 \text{ Pa/cm}$, $s = 1.0 \times 10 \text{ cm}^2$ および $v = 1.0 \times 10^3 \text{ cm}^3$ のとき、 $h [\text{cm}]$ を有効数字 2 桁で答えよ。また、計算過程も示せ。

(2) 次の文章を読んで、問1～問5の答を解答欄に記入せよ。

水素 H_2 は燃料電池に利用されるなど、エネルギー源として有用な物質である。 H_2 を得るための方法の一つに水の電気分解がある。a 純粋な水はイオンの濃度が低く、電気伝導性がよくないため、高い電圧をかけないと電気分解ができない。 電気分解により効率よく H_2 を得るためには、水に少量の電解質を加えて電気伝導性をよくする。例えば、b 希硫酸に、二本の白金電極を入れて電極間に直流電流を流すと、陽極と陰極のそれぞれで化学反応がおこる。 このときの両極の反応をまとめて示すと、次の(1)式のようなになる。



問1 下線部 a について、水のごく一部は電離してイオンを生じる。純粋な水に含まれるイオン全体のモル濃度を有効数字2桁で答えよ。ただし、水のイオン積 K_w は $1.0 \times 10^{-14} (\text{mol/L})^2$ とする。

問2 (1)式の反応の熱化学方程式を記せ。また、この反応が発熱反応、吸熱反応のどちらであるかを答えよ。ただし、 $\text{H}_2\text{O}(\text{液})$ の生成熱は 286 kJ/mol とする。

問3 下線部 b について、陽極および陰極でおこる化学反応を電子 e^- を含むイオン反応式でそれぞれ記せ。

問4 希硫酸の電気分解反応を、一定電流で965秒間行い、 0.010 g の H_2 を得るには何 A の電流を流せばよいか。有効数字2桁で答えよ。

問 5 水の電気分解によって H_2 を得るためには、硫酸以外の電解質を用いる方法もある。次の①～④の電解質の水溶液に、二本の白金電極を入れて電極間に直流電流を流した場合に、 H_2 が発生するものをすべて選び、その番号を記せ。

① 塩化カルシウム

② 硫酸銅

③ 硝酸銀

④ 硝酸カリウム

3

(1) 次の文章を読んで、問1～問5の答を解答欄に記入せよ。

ある物質が直径 m 程度の大きさの粒子として、均一に他の物質中に分散している状態をコロイドといい、分散している粒子をコロイド粒子という。コロイド粒子を分散させている物質を分散媒、コロイド粒子として分散している物質を分散質といい、分散媒が液体であるコロイドをコロイド溶液という。

コロイド溶液に強い光線を当てて、光線の進行方向と直角の方向から観察すると、粒子によって光が散乱され、光の通路が明るく輝いて見える。この現象を という。また、限外顕微鏡を用いてコロイド溶液を観察すると、コロイド溶液中のコロイド粒子が不規則にゆれ動く様子が見える。この現象を ^a という。分散媒が水であるコロイド溶液に浸した2本の電極に直流電圧をかけると、コロイド粒子はどちらか一方の電極の方に移動する。この現象を という。

水に対する親和力が小さいコロイド粒子が水溶液中に分散しているコロイドを疎水コロイドという。疎水コロイドに少量の電解質を加えると、コロイド粒子は反発力を失い、集まって沈殿する。この現象を という。 は河川水の浄化などに利用されている。また、水に対する親和力が大きいコロイド粒子が水溶液中に分散しているコロイドを親水コロイドという。親水コロイドに多量の電解質を加えると、コロイド粒子が集まって沈殿する。この現象を という。

問1 空欄 に当てはまる数値の範囲として、最も適切なものを次の①～④から1つ選び、その番号を記せ。

① $10^{-17} \sim 10^{-15}$

② $10^{-13} \sim 10^{-11}$

③ $10^{-9} \sim 10^{-7}$

④ $10^{-5} \sim 10^{-3}$

問 2 空欄

イ

 ~

カ

 に当てはまる最も適切な語句を記せ。

問 3 下線部 a について、コロイド溶液中のコロイド粒子が不規則にゆれ動く理由を 35 字以内で記せ。

問 4 ある疎水コロイドに浸した 2 本の電極に直流電圧をかけたところ、コロイド粒子は陽極側に移動した。この疎水コロイドにできるだけ少ない体積の電解質水溶液を加えてコロイド粒子の沈殿を生じさせるには、次の①～③のうち、どの電解質の水溶液を加えるとよいか。最も適切なものを 1 つ選び、その番号を記せ。ただし、電解質水溶液中の電解質のモル濃度はすべて同じであり、また、電解質は水溶液中で完全に電離するものとする。

- ① NaNO_3 ② $\text{Ca}(\text{NO}_3)_2$ ③ $\text{Al}(\text{NO}_3)_3$

問 5 コロイドに関する次の①～④の記述のうち、正しいものをすべて選び、それらの番号を記せ。

- ① コロイドには、分散媒が気体で分散質が液体であるものも存在する。
- ② デンプンやタンパク質のコロイド粒子が分散した水溶液は疎水コロイドである。
- ③ コロイド溶液が加熱などの操作によって流動性を失って固化したものをゾルという。
- ④ セッケンのような界面活性剤が水溶液中で会合してつくるコロイド粒子をミセルという。

(2) 次の文章を読んで、問1～問4の答を解答欄に記入せよ。

炭素は、周期表の 族に属する元素である。炭素の単体は、天然にはダイヤモンドや黒鉛(グラファイト)の形で存在する。また、炭素の単体には、分子式 C_{60} 、 C_{70} など表される球状の分子もあり、これらは とよばれている。このように、同じ元素の単体で性質の異なる物質どうしを、互いに であるという。

ケイ素は、炭素と同じく周期表の 族に属する元素である。ケイ素の単体は天然には存在せず、例えば、電気炉中で溶融させた 二酸化ケイ素 SiO_2 を炭素で還元してつくられる。二酸化ケイ素を水酸化ナトリウムとともに加熱すると、ケイ酸ナトリウムを生じる。ケイ酸ナトリウムに水を加えて加熱すると、 とよばれる無色透明で粘性の大きな液体が得られる。 の水溶液に塩酸を加えると白色の沈殿が生成し、この沈殿を水で洗浄したのち加熱して脱水すると、 が得られる。 は多孔質の固体であり、乾燥剤や吸着剤として利用される。

次頁の図は、単体のケイ素の結晶の単位格子を示したものである。図中の白丸(○)は、ケイ素原子の位置を示している。ケイ素の結晶は、ダイヤモンドと同じ結晶構造をしており、その単位格子は立方体である。いま、この単位格子の1辺の長さを L として、 L の値からケイ素原子間の結合距離を求めることを考える。ここで、単位格子の頂点の1つを A とし、 A に対し立方体の対角に位置する頂点を B とする。また、単位格子を8分割してできる小さな立方体のうち、頂点 A を含む小さな立方体の中心を C とする。このとき、 $A - B$ 間の距離は、 $A - C$ 間の距離の 倍になる。また、 $A - B$ 間の距離は、 L を用いて と表される。したがって、 $A - C$ 間の距離、すなわち、ケイ素原子間の結合距離は、 と表すことができる。

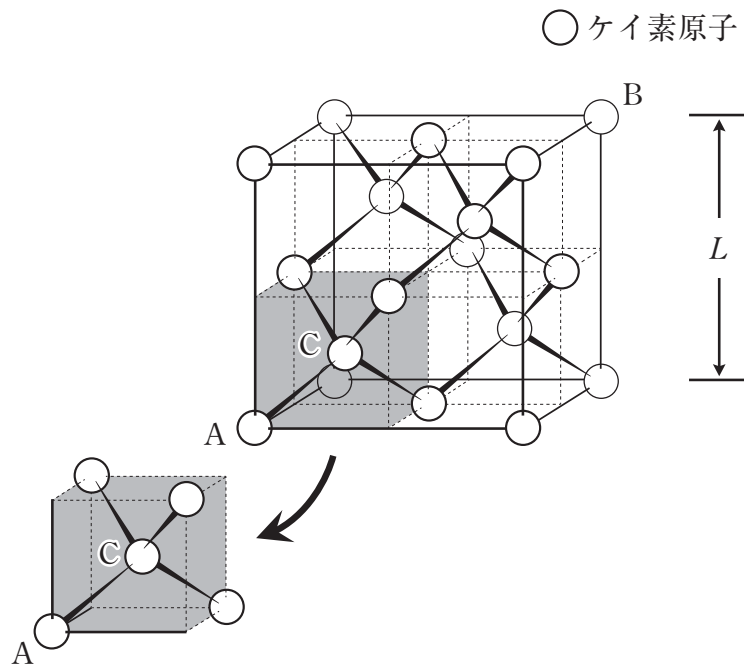


図 ケイ素の結晶の単位格子

問 1 空欄 に当てはまる数字, および空欄 ~ に当てはまる最も適切な語句を記せ。

問 2 下線部 a に記された反応の化学反応式を記せ。

問 3 空欄 に当てはまる数字を記せ。また, 空欄 , に当てはまる式を L を使って, それぞれ記せ。

問 4 ケイ素の結晶の単位格子 1 つあたりに含まれるケイ素原子の数を記せ。
また, ケイ素の結晶の密度 [g/cm^3] を求め, 有効数字 3 桁で答えよ。密度については, 計算過程も記せ。ただし, ケイ素の結晶の単位格子の 1 辺の長さは $5.43 \times 10^{-8} \text{ cm}$ であり, また, $5.43^3 = 160$ とする。

4

(1) 次の文章を読んで、問1～問5の答を解答欄に記入せよ。

炭素と水素だけからできている有機化合物を^a炭化水素という。炭化水素は、分子の形や、炭素原子間に不飽和結合があるかどうかなどによって、鎖式炭化水素、環式炭化水素、飽和炭化水素、不飽和炭化水素などに分類される。

炭化水素の水素原子を官能基で置換すると、その官能基に特有の性質をもつ化合物となる。炭化水素の水素原子をヒドロキシ基で置換した化合物をアルコールという。ベンゼン環にヒドロキシ基が直接結合した化合物は 類とよばれる。酸素原子に2個の炭化水素基が結合した化合物は とよばれる。^bアルデヒド、ケトン、カルボン酸は、炭素原子と酸素原子間に二重結合のある原子団を有している。アルデヒドとケトンの場合はこの原子団を 基という。2個のカルボキシ基から1分子の水がとれて結合した構造をもつ化合物は とよばれる。

問1 空欄 ～ に当てはまる最も適切な語句を記せ。

問2 下線部 a の化合物の分子の構造に関する次の記述①～④のうち、正しいものをすべて選び、その番号を記せ。

- ① アセチレンの炭素原子間の結合距離は、エチレンの炭素原子間の結合距離よりも長い。
- ② ベンゼンの炭素原子間の結合距離は、エタンの炭素原子間の結合距離よりも長い。
- ③ プロピン分子中の炭素原子は、すべて同一直線上にある。
- ④ 2-メチルプロペン分子中の炭素原子は、すべて同一平面上にある。

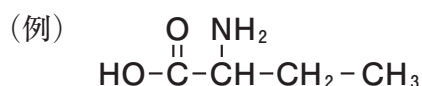
問 3 下線部 a の化合物の反応に関する次の記述①～④のうち、正しいものすべてを選び、その番号を記せ。

- ① 臭素水に十分な量のエチレンを通すと、溶液が無色になる。
- ② アセチレンに水を反応させると、エタノールを生じる。
- ③ プロピレンに臭素を付加させると、不斉炭素原子をもつ化合物を生じる。
- ④ ベンゼンに紫外線を当てながら塩素を反応させると、クロロベンゼンを生じる。

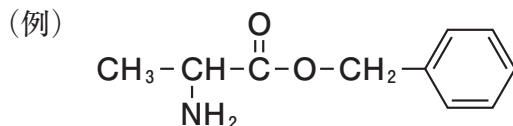
問 4 下線部 b の化合物の反応に関する次の記述①～④のうち、正しいものすべてを選び、その番号を記せ。

- ① 酢酸に炭酸水素ナトリウムを加えると、二酸化炭素を生じる。
- ② ギ酸にアンモニア性硝酸銀水溶液を加え穏やかに加熱すると、銀を生じる。
- ③ アセトンにフェーリング液を加え加熱すると、酸化銅(I)を生じる。
- ④ ホルムアルデヒドに塩基性の条件下でヨウ素を加え加熱すると、ヨードホルムを生じる。

問 5 ヒドロキシ基とカルボキシ基の両方を持ち、分子式が $C_3H_6O_3$ で表される化合物には、2種類の構造異性体が存在する。一方の構造異性体は不斉炭素原子を持ち、もう一方の構造異性体は不斉炭素原子をもたない。それら2種類の構造異性体の構造式を、次の例にならって記せ。



(2) 次の文章を読んで、問1～問3の答を解答欄に記入せよ。なお、構造式は下の例にならって記せ。



分子式 $\text{C}_{12}\text{H}_{16}\text{O}_2$ をもつエステル **A** に、水酸化ナトリウム水溶液を加えて加熱した。これを室温に冷却し、ジエチルエーテルを加えてよく振り混ぜ静置すると、水層とエーテル層に分離した。この水層を取り出し ア を加えると、芳香族カルボン酸 **B** が析出した。一方、エーテル層からは分子式 $\text{C}_5\text{H}_{12}\text{O}$ をもつアルコール **C** が得られた。

アルコール **C** の構造を決定するために、次の2つの実験を行った。1つめの実験では、アルコール **C** に 硫酸酸性の二クロム酸カリウム水溶液を加えて加熱した。その結果、ケトン **D** が生成した。2つめの実験では、アルコール **C** の分子内脱水反応を行った。その結果、アルコール **C** から 2種類のアルケン が生成した。これら2種類のアルケンは、両方ともシス-トランス異性体(幾何異性体)をもたなかった。ただし、この分子内脱水反応は、ヒドロキシ基と、それが結合している炭素原子の隣の炭素原子に結合した水素原子が水分子となってとれる条件で行われた。

問1 空欄 ア に当てはまる最も適切な化合物を、次の①～⑥から1つ選び、その番号を記せ。

- | | | |
|--------|-----------|-----------|
| ① アセトン | ② アニリン | ③ ベンゼン |
| ④ 塩酸 | ⑤ 酢酸ナトリウム | ⑥ 硫酸ナトリウム |

問 2 芳香族カルボン酸 **B**, ケトン **D** の分子式をそれぞれ記せ。

問 3 以下の手順でアルコール **C** の構造を決定する。次の各問に答えよ。

- 1) 分子式 $C_5H_{12}O$ で表される化合物の構造異性体のうち、アルコールは全部でいくつあるか、その数を記せ。
- 2) 1)のアルコールのうち、下線部 a の反応によりケトンになるアルコールは全部でいくつあるか、その数を記せ。
- 3) 下線部 b の 2 種類のアルケンの構造式を記せ。
- 4) アルコール **C** の構造式を記せ。

5

(1) 次の文章を読んで、問1～問4の答を解答欄に記入せよ。

多くの高分子化合物は、小さな構成単位が繰り返し結合した構造をしている。高分子化合物を構成する繰り返し単位の数は一定ではなく、高分子化合物にはさまざまな分子量をもつものが存在する。そのために、高分子化合物の分子量を表すには、 分子量が用いられている。 分子量は、それぞれの分子の分子量の総和を、分子の総数で割ったものである。

構成単位となる小さな分子を単量体といい、多数の単量体が次々に結合する反応を重合という。重合には、 重合や付加重合などがある。

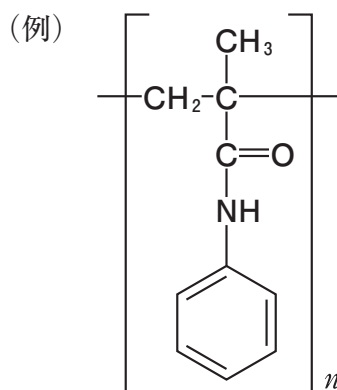
重合は、1分子内に2個以上の官能基をもつ単量体間で簡単な分子がとれ、単量体が次々と結合する重合反応である。例えば、2価アルコールの と2価カルボン酸の を重合すると がとれて、^aポリエチレンテレフタレートが得られる。

付加重合は、二重結合や三重結合をもつ単量体が付加反応を繰り返しながら結びつく重合反応である。特に、ビニル基($-\text{CH}=\text{CH}_2$)をもつ単量体が多く用いられている。例えば、アクリロニトリルを付加重合すると_bポリアクリロニトリルが生成する。また、酢酸ビニル($\text{CH}_2=\text{CH}-\text{OCOCH}_3$)を付加重合するとポリ酢酸ビニルが得られ、^cポリ酢酸ビニルを水酸化ナトリウム水溶液で加水分解(けん化)するとポリビニルアルコールが得られる。ポリビニルアルコールの水溶液を細孔から硫酸ナトリウム水溶液中に押し出すと繊維状に固まる。これを水に溶けなくするために、 水溶液で処理(アセタール化)すると、ビニロンができる。

問1 空欄 ～ に当てはまる最も適切な語句を記せ。

問2 空欄 ～ に当てはまる最も適切な化合物名を記せ。

問 3 下線部 a のポリエチレンテレフタレートと下線部 b のポリアクリロニトリルの構造式を，次の例にならって，それぞれ記せ。



問 4 下線部 c の加水分解によりポリビニルアルコール 22 g を得るには，何 g のポリ酢酸ビニルが必要か，有効数字 2 桁で答えよ。ただし，加水分解は完全に起こるものとする。

(2) 次の文章を読んで、問1～問3の答を解答欄に記入せよ。

タンパク質は、種々のアミノ酸が重合して鎖状に結合したポリペプチドである。タンパク質の一次構造とは、アミノ酸の配列順序のことである。タンパク質の二次構造とは、ペプチド結合の >C=O と別のペプチド結合の H-N< の間で形成される $\text{>C=O}\cdots\text{H-N<}$ のような 結合により安定化された、比較的狭い範囲で規則的にくり返される立体構造のことである。この二次構造には、 とよばれるポリペプチド鎖がらせん状に巻いた構造や、 とよばれるジグザグ状に折れ曲がったポリペプチド鎖部分が平行に並んだ構造がある。タンパク質の三次構造とは、ポリペプチド鎖の側鎖間の相互作用や、システインの $-\text{SH}$ 基どうしの反応で生じた共有結合である 結合などによって、ポリペプチド鎖が複雑に折りたたまれた立体構造のことである。

生体内で起こる化学反応では、タンパク質を主成分とする酵素が触媒としてはたらく。それぞれの酵素は、はたらきかける相手が決まっており、これを酵素の という。例えば、すい液や胃液に含まれる酵素であるリパーゼは、油脂を と に加水分解するが、タンパク質を加水分解することはできない。また、プロテアーゼは、タンパク質をペプチドに加水分解する酵素としてはたらく。酵素反応の反応速度は、温度や pH などの影響を受ける。

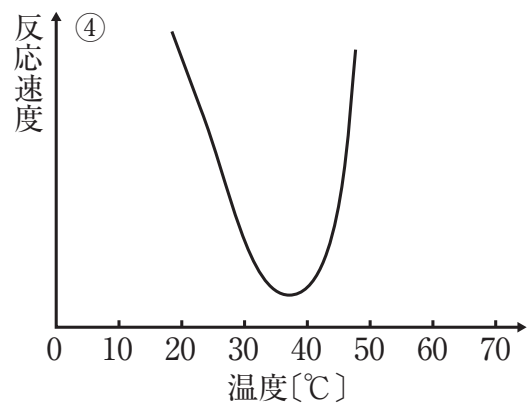
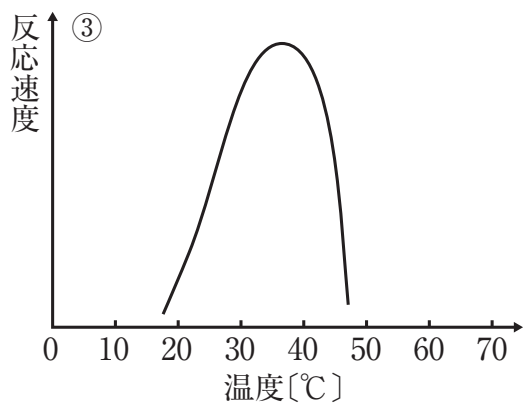
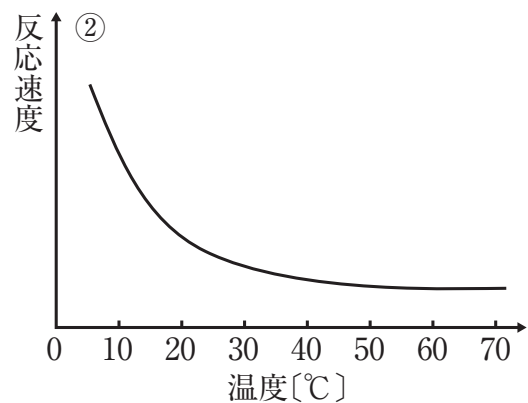
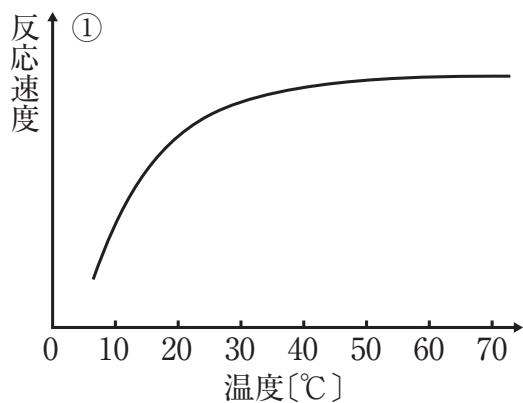
問1 空欄 ～ に当てはまる最も適切な語句を記せ。

問 2 次の①～④の文章には誤ったものと正しいものが含まれている。正しい場合には○を記せ。また、誤っている場合には、正しい記述になるように下線部の語句を修正し、修正後の語句を記せ。

- ① タンパク質水溶液に、水酸化ナトリウム水溶液を加えて塩基性にした後、少量の硫酸銅(Ⅱ)水溶液を加えると赤紫色になる。この反応を、ニンヒドリン反応という。
- ② タンパク質水溶液に、水酸化ナトリウム水溶液を加えて加熱すると、タンパク質が分解し、アンモニアが生成する。
- ③ あるタンパク質を含む水溶液に、濃硝酸を加えて加熱すると黄色になり、さらにアンモニア水を加えて塩基性になると、橙黄色になる。この結果は、このタンパク質を構成するアミノ酸に、カルボキシ基を側鎖にもつアミノ酸が含まれていることを示す。
- ④ あるタンパク質を含む水溶液に、水酸化ナトリウム水溶液を加え加熱した後に、酢酸鉛(Ⅱ)水溶液を加えると、黒色沈殿を生じる。この結果は、このタンパク質を構成するアミノ酸に、窒素を側鎖に含むアミノ酸が含まれていることを示す。

問 3 下線部 a について、酵素としてアミラーゼを用いた反応に関する次の各問に答えよ。

- 1) この酵素反応の反応速度と温度の関係を表わす図として、最も適切なものを次の①～④から1つ選び、その番号を記せ。



2) この酵素反応の反応速度と pH の関係を表わす図として、最も適切なものを次の①～④から1つ選び、その番号を記せ。

